

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームはるる	評価実施年月日	平成19年 8月24日
評価実施構成員氏名	施設管理者 : 三木 泉 計画作成担当者 : 鈴木 木 介護職員 : 五十嵐 豊子 : 相佐 恒 : 今野 康 : 能智 尚 : 水野 真 : 竹野 芳 : 菊本 美 : 池進		
記録者氏名	菊池 進	記録年月日	平成19年 9月10日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>地域の中でその人らしく穏やかな生活が出来るように、尊厳を維持できるように、個々の能力を活かせるような場所にしたい、という思いを基に理念を作り、日々それに取り組んでいる。</p>	○	理念を常に念頭に置き、それを全職員が意識して実行・実践していけるよう心掛けていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>運営理念を見やすいところに明示し、その実践に向けて取り組んでいる。</p>	○	会議等で理念の見直し・確認を行うようにし、全職員が実践していけるよう検討していく。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>パンフレットや入居の際に渡す重要事項説明書に理念を明記し、地域や家族の方々に理解していただけるよう取り組んでいる。</p>	○	より地域の方々に理解していただけるよう、交流の場で説明を行なっていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>町内会や運営推進会議等の際に、理解を深めてもらえるよう努めている。入居者との散歩等外出の際には挨拶などの声かけをして日常的な付き合いが出来るよう努めている。</p>	○	町内会の行事等に積極的に参加し、日常的な付き合いが出来るよう努力していきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>地域での行事や活動には出来る限り参加し、交流を図るよう努めている。</p>	○	今後も町内会・行事等の地域活動に積極的に参加し、地元の人々との交流を大切にしていきたい。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議などにおいて、地域の高齢者との関わり合いについて話し合いはされているが、具体的な対応には至っていない。</p>	○	事業所における催し等の際には、高齢者・近隣の方々を招き行なっていけるよう検討していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員は自己評価及び外部評価の意義を理解し取り組んでいる。</p>	○	評価については全職員で話し合い、それを活かした改善に取り組んでいきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>入居者の家族や地域の方々に参加いただき、事業所での取り組みについての報告等を定期的に行なっている。又そこで伺った意見等は職員会議にて検討し、サービスの質の向上に役立っている。</p>	○	より多くの地域の方々に理解してもらえよう、参加を呼びかけていきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>事故報告やその他の連絡等の際には、出向いてアドバイスを頂いたり連携を密にとるよう努めている。</p>	○	問題等発生した場合にはその都度相談し、話し合いを出来る関係を築いていきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>それぞれについて学ぶ機会を持ち話し合いをしているが、現在必要とされている方はいないので支援は行なっていない。</p>	○	今後更に詳しく、会議等で地域権利擁護について学ぶ機会を持ち、必要としている人に活用していけるよう努めていく。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>会議時に虐待について学び、注意・防止に努めている。</p>	○	入居者一人ひとりの状態の変化やサインを見逃さないよう注意し、防止に努めていく。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約の際には、全ての項目についての説明を行なうと共に、不安・疑問等あればいつでも対応可能な体制を取っている。</p>	○	施設側の契約者のみならず、どの職員でも相談できるように信頼関係を築いていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員は日々のコミュニケーションにおいて、入居者の不満・苦情等を聞くよう努め、会議で話し合い運営に反映させている。	○	運営推進会議などにより、外部に入居者の意見を伝えられる機会を設け、運営に反映させていけるよう取り組んでいきたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月通信を発行し、担当者が各家族に生活状況等を手紙に書き報告している。日常においても、健康状態・金銭等必要に応じて家族に報告している。	○	今後も通信や手紙を活用し、家族への報告を行なっていきたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関横に窓口を設置、又運営推進会議時に家族の方々にも参加していただき、意見等表せる機会を設けている。その意見は会議等で話し合い運営に反映させている。	○	今後も家族の意見・苦情等を聞き運営に反映させていけるよう体制を整える。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者や管理者は、日々職員の意見や提案を聞くようにし、その意見を日常業務に活かしている。	○	個別に話しを聞く機会を持ち、意見を聞いていきたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	日々職員同士で話し合い、入居者の状況や変化、行事の際等必要な職員を確保できるよう調整に努めている。	○	急変時等に、職員が柔軟に対応できる体制を整えていきたい。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	現在職員の移動等は計画しておらず、固定の職員で業務を行なっている。	○	職員の移動等はやむを得ない場合以外は行わず、離職等の希望があった場合には全職員が入居者・家族に対するケアを意識し行なう。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>他の施設への研修や、講習会への参加などの機会を設け、職員の育成に努めている。又、定期的に事業所内での勉強会を行なっている。</p>	○	<p>職員の勉強会・研修・講習会などの参加の機会を増やし、ケアの質の向上を図っていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域の同業者との交流が持てる機会があれば積極的に参加させ、より良い相互関係を築けるよう取り組んでいる。</p>	○	<p>同業者との情報交換を密にし、現場に反映させていけるよう取り組んでいきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員のストレスを軽減させる為に、ストレス発散法等を取り入れ実践させている。又、日常的な聞き取りをしている。</p>	○	<p>職員の不満や疲れを見逃さないよう観察し、あれば軽減させれるよう努める。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>声をかける際には感謝の言葉を伝えている。又、その努力や資格に応じての手当て・昇給等のシステムを取り入れ、職員が向上心を損なわないよう配慮している。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>職員は利用者によくコミュニケーションをとり、不安や要望を聞きだすよう努めている。又その際には、安心を持っていただけるような声かけ・対応を心掛けている。</p>	○	<p>本人の気持ちを正確に把握し、要望に応える努力をしていく。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用される前後に家族の方々の不安・要望をよく伺い、安心した生活を送れるよう考慮しサービスを提供する。</p>	○	<p>初期のケアだけではなく、入所されてからも家族のケアを忘れずに行なっていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者とその家族が求める支援を全職員で検討し、最良の支援を出来るよう努めている。	○	柔軟な対応が取れるように、日頃から他のサービスについても学ぶ機会を持ちたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	サービスの内容や施設内の雰囲気等を説明し、本人とその家族が納得した上でサービスを開始している。又、体験利用や訪問等の対応も取れるよう体制を整えている。	○	早期に信頼関係を築き、安心して生活を送っていただけるよう工夫していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々入浴や食事を共にし交流を図っている。又、施設における外出や行事等は職員も共に参加し、気持ちを共有することが出来ている。	○	入居者から様々なことを学び、関係を深めて行けるよう努める。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	通院等の健康管理・誕生日会・慰問等は家族と共に行ない、家族の方々の意識が施設から離れないようにしている。又、職員が対応しきれない時は、家族の方々に支援していただいている。	○	受診の際などにも、家族の望む支援をしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族が来所された際には、話題提供するなどをして楽しい時間が過せるよう努めている。	○	家族の思いを把握し、より良い関係を築いていけるよう支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	それぞれの馴染みの場所等に出掛けられる機会を設けている。又、知人の訪問の際にはその関係を配慮した上で、交流を絶やさないう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の関係の把握に努め、関係の悪化等が無いよう配慮している。	○	入居者同士で和やかな関係が築けるよう、職員が意識し声かけを行なっていく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後においても、本人や家族の方々が遊びにこれるような関係を築けるよう、日々努めている。	○	今後も本人や家族の方々との関係を大切にしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の希望・意向に基づいた介護計画を作成し、困難な場合は定期的に行なう会議等で定期的に応答している。又、担当スタッフは日々入居者の希望の把握に努めている。	○	出来る限り本人の意向を取り入れ、統一されたケアをしていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日々のコミュニケーションにおいて、職員は入居者の生活歴の把握に努めている。	○	常に情報の交換・見直しを行うよう努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個別の介護記録を詳細に記録し、現状及び変化の把握に努めている。又、連絡帳の利用や口頭での申し送りにより、入居者の状態を確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者と家族・担当医・職員等の意見を反映させ、介護計画を作成している。	○	介護支援専門員以外の職員も、介護計画を常に意識し質の向上を図っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護支援専門員は担当の職員と協力し、定期的に介護計画の作成・見直しを行なっている。又、家族等と話し合い適切な介護計画となるよう取り組んでいる。	○	入居者の変化等あったときは、家族等と相談をし納得を得られたうえで、現状に即した介護計画を作成するよう努める。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	担当スタッフが注意深く対応・観察しながら、介護記録や連絡帳に記録し、情報の共有を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	食事や外泊など、家族や本人の希望に柔軟に対応出来るよう体制を整えている。	○	家族や本人の要望の把握に努め、可能な範囲で対応していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員やボランティアの方々に支援の協力をいただいている。又、避難訓練の際には消防署の方々に立ち会っていただき実施をしている。	○	事故や行方不明等の緊急時に、警察や消防の協力を迅速に得られるよう取り組んでいきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	町の協力を得て、理学療法士による訪問リハビリ等を取り入れている。	○	地域のケアマネージャーとの連携をより密にし、必要とする支援をしていけるよう取り組んでいく。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議等を通じて連携をとり、必要に応じて協働をしていく。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	認定調査時や毎日の様子で気になる点があるときは、電話などでの連絡・相談を行っている。	○	定期受診時も通常4週間近く空く為、かかりつけ医等との関係を密にし健康管理を行なっていく。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要があれば相談・協力を依頼できる体制をとっている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	同事業所内の看護職員による定期的な健康チェック等を行い健康管理をしている。又、体調の変化等あれば相談・報告を迅速に行い、指示を仰いでいる。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院後も利用者と面会するなどをして、状態の把握に努めている。又、家族との連絡を密にとっている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	身取りにおける指針についての書類を渡し、家族と話し確認をしているが、現在事例が無い。	○	今後急変時に迅速な対応を取れるように、個々の家族・担当医と話し合い穏やかに終末期を過せるように努める。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現在事例が無いので実施していない。	○	個々の状態の重度化は少しずつ見られるので、出来る事・出来ない事を明確化し、チームとして取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	移動先の施設の方との面接・聞き取り調査を密に行い、情報交換を行なっている。又、本人の状態を書面にて伝え、以前の生活と変わらないよう考慮している。	○	今後もスムーズに住み替えが出来るよう、十分な情報交換や話し合いを行なっていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	呼び名を家族に確認した上で、その人に合った声かけを行なっている。又、入居者の個人情報の取り扱いについて、職員と守秘義務の契約を交わしている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日頃からその人の理解に努め、本人が選択し希望通りに出来るような対応心掛けている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床・就寝又は食事の時間等、本人のペースに合わせている。又、介護記録を確認することにより、一日の流れを把握しその日とらしい生活が送れるよう努めている。	○	外出や入浴なども、希望を受け入れられるよう体制を整えていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	カットやヘアカラーなど、定期的に入居者が望む身だしなみやおしゃれを支援している。	○	本人の希望する馴染みの店等に行けるように、家族と職員で検討していく。
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者に好みを聞いてメニューを決めている。又、その下ごしらえや味見など一緒に食事の準備をしている。	○	本人だけでなく、家族や知人にも入居者の嗜好を伺い、提供していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	買い物などの際には、好きなお菓子を選んでもらっている。又、水分補給にはいくつかの種類を用意し、本人の嗜好に合わせた物を提供している。 現在、飲酒・喫煙を希望される入居者はいない。	○	タバコやお酒などを希望する入居者がいれば、健康管理を徹底した上で支援していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンをつかみ誘導している。必要があれば、運動や腹部マッサージ、乳製品の摂取などをして気持ちよく排泄が出来るよう支援している。	○	夜間時も排泄のパターンを考慮し、尿とり等の汚染の頻度を減らしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一部の入居者に対し、希望通りの入浴が出来ていない。	○	職員は一人ひとりの生活暦や体調等を把握し、本人の希望に添った入浴を勧めていきたい。又、入浴剤などを使用し楽しめるよう工夫していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中に昼寝の時間を設ける、傾眠の際には適切な対応をするなどを心掛けている。 夜間の不眠時の際には、温かいものを飲んでもらう、清拭をするなど、一人ひとりに合わせた対応をしている。	○	安眠を促す香りや音楽を取り入れていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりが出来る範囲で、創作や食事の仕度、洗濯物干し、たたみ等をしてもらっている。又、畑仕事などを一緒にしてもらい、それぞれに役割を持ってもらっている。 天気の良い日は外出をする等をして気分転換を図っている。	○	一人ひとりが生きがいを持って生活できるよう支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員はお金を所持することの大切さを理解しているが、入居者同士で金銭の貸し借り等あったため、現在は事務所で金銭管理を行い、要望があれば使用できるようしている。	○	安心を与える為にも、今後は本人が管理していけるよう家族と検討し、支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	職員は外出の重要性を理解し、その方の希望やこちらからの誘いかけで、畑仕事や散歩・買い物など外出できるよう支援している。	○	外出の機会を増やし、地域の人達との交流を深めていけるよう努める。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	事前に計画を立て、季節ごとの行事等に参加できるよう支援している。	○	今後は家族にも参加していただけるよう、連絡・準備等を行い検討していく。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話はフロアから見えるところに配置し、はがきや便箋等は常に用意してあるので、希望があれば支援している。掛かってきた電話に関しては、その都度家族・本人の意向を確認し取り次いでいる。	○	家族の負担とならないよう配慮した上で、今後も継続していく。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室以外に訪問者が落ち着ける場所が少ない。職員は訪問者に対する態度や笑顔をいつも心掛けている。	○	玄関・フロア等、訪問者が落ち着けるような配置や装飾を意識し行なっていく。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束の内容を理解し、それに当たる行為はしていない。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関の施錠はしておらず、居室も希望があるとき以外は鍵をかけていない。	○	今後鍵をかける必要性が生じた場合においても、第一とせず、会議や適切なケアにより解消していくよう努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜ともに、ドアの隙間からそと様子を伺うなどの配慮をし、安全確認を行なっている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物や貴重品は、事務所で預らせてもらい、必要があれば本人に渡すようにしている。その際は、見守り・声かけ等を行い安全を確保している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	会議等で事故に関する知識を学び、理解して対応・防止している。転倒や窒息の恐れがある入居者については常に見守りを行なっている。	○	今後も事故に対する知識を学び、より適切な対応・防止を行なっていく。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	会議等により全職員の定期的な確認・訓練を行なっている。又、救急救命処置は全員が消防署員による指導の下訓練を受けている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	町内会の理解を得て、協力要請のチラシを配布させてもらうことになっている。	○	町内会や運営推進会議などを通じて、地域の人々の協力を得られるよう努める。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族等の理解と協力を得て、利用者が生活しやすい対応をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタルチェックにより、変化の早期発見を心掛けている。変化等があった際には、連絡帳の活用や口頭での申し送りにより、情報を共有しやすいよう努めている。	○	全職員が情報の共有を出来るよう工夫し体制を整えていく。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者の薬の副作用や用法などを確認できる表を作成し、全職員が把握できるよう努めている。又、変更等あれば、連絡帳により確認できる体制をとっている。	○	施設内外での薬に関する講習会等の機会を設け、薬の知識を深めていきたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	職員は介護記録、排泄チェック表等で確認をし、日々運動を促す・乳製品を勧める等の対応をしている。又、入居者に対し排便の有無の聞き取りをしているが、自立の方の把握が万全ではない。	○	入居者の羞恥心などを配慮した上で、トイレ後の確認等行ない把握に努める。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを行なっている。	○	入居者本人・家族の希望や状態を把握し、定期的な歯科受診等対応をしていく。 職員に対する口腔ケアの研修等も取り入れていきたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日頃、入居者の食事摂取量・水分量の確認をし把握に努めている。	○	一日の水分摂取量を800～1000mlを目途とし、不足あれば入居者に合わせた対応をしている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防・対応に対するマニュアルを作成し、実践している。 ペーパータオルや消毒液の使用。	○	感染症に対する知識を深め、徹底した予防に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	職員が賞味期限等の確認を行い、常に新鮮な食材を使用している。又、布巾や包丁・まな板などの調理用具は毎日消毒をしている。	○	施設内の温度・湿度にも気を付けながら、必要な対応をしていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	毎日の清掃により、清潔の維持を心掛けている。又、装飾や椅子の設置等している。	○	手すりや下駄箱等、職員が汚れ等発見した時は、その都度清掃を行なっていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日の清掃により、清潔を維持を心掛けている。又、四季にあわせた飾り付けをして、居心地の良い空間を作るように努めている。	○	入居者がより馴染みやすいよう、創作品の展示などを多く取り入れていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビ前のソファや食卓テーブルなど、それぞれが落ち着ける場所を利用できるようにしている。	○	共有部分に一人となれる空間がない為、今後検討していく。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室については、入居者とその家族が使いやすいように配置・片付けをしている。又、入居の際には、極力新しいものは置かず馴染みの物を持ってきてもらい、落ち着けるように配慮している。	○	居室の状態について職員が把握し、使いやすい部屋になるよう支援していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気はこまめに行い、においについては芳香剤を使う等をし、過ごしやすいよう配慮している。温湿度は暖房・加湿器などを使用し一定になるよう努めている。	○	冬季乾燥時の湿度調節については、より一定となるよう工夫していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロアや廊下、トイレに手すりを設置し、安全な歩行が出来るよう配慮している。	○	居室内についても、自立した生活を送りやすいように、家具の配置や手すりの設置などを検討していく。 浴室内の手すりの位置等も、今後入居者の状態に合わせて検討していきたい。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレや浴室に名称の張り紙等をして、混乱が無いよう分かりやすくしている。又、入居者が見やすいように日めくりカレンダー等の設置をしている。	○	居室やトイレ等の電気をつける際に混乱してしまう方もいるため、より分かりやすくなるよう工夫していきたい。 生活の中で混乱があるようであれば、何に対してなのかの把握に努め、入居者が安心できる対応を心掛けたい。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関先や畑に花を植え、毎日楽しめるようしている。又、入居者と一緒に畑で野菜を作り生きがいを感じてもらえるよう支援している。		



V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎日ある</li> <li>② 数日に1回程度ある</li> <li>③ たまにある</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul> <p>夕食後、フロアでテレビを見ながら話す、ゆっくりとした時間がある。</p>
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul> <p>積極的に散歩や買い物など、こちらから誘いかけて外へ出るようにしている。</p>
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての家族</li> <li>② 家族の2/3くらい</li> <li>③ 家族の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul>
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ毎日のように</li> <li>② 数日に1回程度</li> <li>③ たまに</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul> <p>町内のボランティアサークルの方が来てレクリエーションを一緒にしたり、お茶を飲んでおしゃべりの場を作っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②<del>②</del>少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>2月、6月と運営推進会議を開催し、地元の人たちに地域で初のグループホームを少しずつ理解してもらっているを思う。</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①<del>①</del>ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>スタッフ間が仲良く、和やかな雰囲気が出せている。</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②<del>②</del>家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・経験不足のスタッフで細かいところが抜ける点もあるが、スタッフ全員が仲良く、和やかな雰囲気で利用者に対応できている。
- ・行事や入浴等の際にも協力がスムーズであり連携が取れている。
- ・研修や日々のケアの中で、更に向上していくように、職員全員で取り組んでいる。